

第37回 医療技術者セミナーのご案内

ーセミナー開催にあたってー

現在、医療業界で推進が求められているタスク・シフト/シェア。「医師の働き方改革」の動きもあいまって、取り組みがより一層加速していますが、もう一つ大きな理由があります。それは、超高齢化社会による医療人材の不足です。厚生労働白書（2020年版）によると、日本の高齢化は2040年にピークを迎え、超高齢化社会で必要とされる医療・福祉の就業者数の想定数に対し、実に96万人もの人材が不足すると云われております。

今回、医療団体セミナーのメインテーマは「医療界における働き方改革」サブテーマを「多職種共同で考えるタスク・シフト/シェア」です。「共同」とは、複数の団体が同じ目的のために一緒に行ったり、同じ条件、資格で関わったりする事、一緒に行うために二人以上の人や二つ以上の団体はつながりを持つ事という意味です。今回のセミナーでは、各団体のタスク・シフト/シェアの取り組みを報告して頂きます。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

福岡県医療団体協議会 会長 外山 洋子

テーマ 『医療界における働き方改革』 ～ 多職種共同で考えるタスク・シフト/シェア ～

* プログラム *

日時 令和6年2月3日（土） 13:40～15:50（受付13:00より）
会場 ナースプラザ福岡 1階 研修ホール
後援 福岡県・福岡県医師会

- 挨拶 13:40～ 福岡県医療団体協議会 会長 外山 洋子
- 特別講演 13:45～14:45
演題 『医師の働き方改革における多職種協働について』
講師 岡田 靖 先生（国立病院機構九州医療センター副院長 総括安全衛生管理者）
座長 福岡県医療団体協議会 会長 外山 洋子
- シンポジウム 『多職種共同で考えるタスク・シフト/シェア』 14:50～15:50
【臨床衛生検査技師会】医師の働き方改革における臨床検査技師へのタスクシフト/シェアについて（木村 賢司）
【診療放射線技師会】当院におけるアンギオ介助への取り組みについて（高橋 寛敏）
【看護協会】患者の最善と組織貢献を目指すチーム医療～放射線技師への静脈路確保の移管を通して～（椎葉 優子）
【栄養士会】栄養管理におけるタスク・シフト/シェア～質の高いチーム医療のために管理栄養士ができること～
(原澤 あゆみ)

※ 事前申込の必要はありません。参加費は無料です。

■ 特別講演 ■

『医師の働き方改革における多職種協働について』

岡田 靖 先生（国立病院機構九州医療センター副院長 総括安全衛生管理者）

九州医療センターでは2018年3月の労働基準監督署の指導以降、2024年の医師の時間外労働時間の上限規制に対応して病院職員全体で様々な取り組みを行っている。医師への7つの対策として1. 36協定遵守と過重労働による健康障害防止、2. 夜勤制の導入、3. 自己研鑽の明確化、4. 時間外労働累計時間の見える化と診療科内の情報共有、5. 勤務線表の工夫と夜勤前後休暇の徹底、6. 36協定超え医師全員に対する副院長（産業医）面接、そして7. タスクシェア（協働）については、多職種で構成される勤務環境改善委員会で検討し、可能なものを実施している。これらの取り組みにより医師の時間外労働時間は経年的に減少し、2021年度以降、医師全員がA水準（年間960時間以下）を達成している。本講演では九州医療センターの看護部、放射線部などとの多職種協働の取り組み、これからの課題や働き方のめざすもの、「学習と成長」のあり方についても紹介したい。

『医師の働き方改革における臨床検査技師へのタスクシフト/シェアについて』

木村 賢司（社会医療法人天神会 新古賀病院 臨床検査課）

医療が高度化、複雑化する中、各医療専門職種が疲弊することなく、それぞれが有する本来の専門性を発揮して、効率的で安心・安全な医療提供体制の構築が求められている。

『医師の労働時間の短縮・健康確保』と『必要な医療の確保』のため医師より多職種へのタスクシフト/シェアを検討され、臨床検査技師においても検討委員会により検討された8項目が今回、法改正により厚生労働大臣指定の研修後、実施可能となっている。

福岡県臨床衛生検査技師会においても、2022年4月より随時講習会を行っている。

今回は、福岡県臨床衛生検査技師会で行っている講習会について、講習会の様子と実施状況の報告、また実際に現場での運用について報告させていただく。

『当院におけるアンギオ介助への取り組みについて』

高橋 寛敏（宗像水光会総合病院 放射線室）

現在、日本放射線技師会により行われている告示研修において、動脈路に造影剤注入装置を接続する行為（動脈路確保のためのものを除く）が該当する、カテーテル検査に関する医師の補助が、我々、診療放射線技師の業務の一つとしてタスクシフト/シェアの観点から今回、業務拡大された。当院は2009年に循環器医師、病院長などからの強い要望でカテーテル検査の直接介助（以下：直介）を診療放射線技師が従事し始めた。当院において、カテーテル検査の直介業務に従事し始めた経緯や、当院の血管撮影室のご紹介、カテーテル検査でのスタッフ構成や診療放射線技師の役割、また当院での物品の展開やシーツやカテーテルなどのプライミングをどのような手順でおこなっているか、カテーテル検査の直介業務の修得における当院での教育方法やマニュアルなども一部ではあるが併せて紹介し、今後、直介業務を検討されている皆様の施設でのご参考になれば幸いである。

『患者の最善と組織貢献を目指すチーム医療～放射線技師への静脈路確保の移管を通して～』

椎葉 優子（福岡大学西新病院 看護部）

令和3年5月28日「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」が公布され同年10月には、診療放射線技師（以下放射線技師）を含む4職種を対象とした法改正が行われた。放射線技師は画像診断装置を用いた検査において静脈路確保が可能となった。

法改正を機に、患者さんの利益や安全性の確保を重視したうえで放射線技師へ静脈路確保を移管することを計画した。当院診療放射線技師は、令和4年度3名、令和5年度4名の計7名が告示研修を受講し、看護師による教育と見守りにより静脈路確保の技術を習得した。現在、外来患者の造影CTの静脈路確保は看護師から放射線技師にシフトしている。

外来では救急搬送患者対応、意思決定支援に看護師を配置できるようになり、看護師としての専門性の発揮に繋がった。患者の最も近い位置にいる看護師が裁量を活用して各々の職種の役割拡大に関わり、専門性を活かしたチーム医療の発揮に取り組んでいる。

『栄養管理におけるタスク・シフト/シェア～質の高いチーム医療のために管理栄養士ができること～』

原澤 あゆみ（社会医療法人共愛会 戸畑共立病院 栄養科）

2023年4月、開設111年目を迎えた当院は、平均在院日数13.1日 病床利用率83.0%（2022年度）218床の急性期病院で、34の診療科と専門外来を有している。断らない救急医療、集学的ながん治療、医療を通じた社会貢献を3本柱に『質の向上を目指したチーム医療』をスローガンに掲げ、地域医療に貢献している。

当院入院中の患者においては、入院時の栄養リスク判定で中等度～高度栄養不良のリスク患者が年間を通じて5割近く存在し、適切な診療支援のためにも入院から退院まできめ細やかな栄養サポートが必要となる。そのため2010年より医師、看護師、その他のメディカルスタッフと患者の栄養管理が迅速かつ適切に提供できるように管理栄養士の病棟担当制をとっている。病棟管理栄養士は、日々の回診/カンファレンスの中で多角的な情報を得て医師の包括指示のもと栄養管理においては中心的な役割を担うように努めている。

当院における「栄養管理手順」にのっとった管理栄養士による栄養サポートが医師及び看護師の負担軽減に繋がり、引いては質の高いチーム医療で患者の診療支援に繋がる可能性があることを報告する。